

佐渡汽船新潟港万代島ターミナルにパブリックアート

金工作家・宮田亮平氏が原画・監修、制作

『佐渡彩景』

故郷に「原点」のイルカ題材



<原画イメージ>

縦 4m×横 7m

公益財団法人日本交通文化協会(東京都千代田区、理事長:滝久雄)は、佐渡汽船株式会社(新潟県佐渡市、代表取締役社長:尾崎弘明)の協力、ならびに一般財団法人日本宝くじ協会の「社会貢献広報事業」の助成を受け、佐渡汽船新潟港万代島ターミナルに大型陶板・金属レリーフを制作・設置し、2020年3月にお披露目します。

日本交通文化協会として543作品目となる本作品は、佐渡出身、東京藝術大学名誉教授で世界的な金工作家である宮田亮平氏が原画・監修を務め、金属で制作したイルカは同氏が自ら手がけています。陶板に描かれた風情は古くからの伝統芸能の鬼太鼓や、観光客らに人気の名物のたらい舟、海運業の中心となった北前船、歴史的価値の高い佐渡金山、日本を象徴する鳥と称されるトキ、美しい自然風景など、佐渡の文化、歴史そして自然を最大限に表現しています。その佐渡を優雅に泳ぐイルカの群れ。『藝大受験のため佐渡汽船に乗り、佐渡島から新潟に向かうときに見たイルカの姿に魅かれたことが芸術家としての「原点」』と語る同氏が表現したイルカは、佐渡へ訪れた人々を温かく出迎え、旅立つ人々に元気や勇気を与える、まるで応援団かのように、佐渡の島、そして島とつながる人々を見守りながら泳ぎ続けています。

同氏が本協会では原画、監修、制作を務める作品は今回で16作品目、新潟県内では6作品目となります。



このパブリックアートは、一般財団法人日本宝くじ協会の「社会貢献広報事業」の助成を受けて整備されました。

<公益財団法人日本交通文化協会 概要>

○当事業の目的

- ①東京藝術大学名誉教授・金工作家の宮田亮平氏の原画をもとにした陶板・金属レリーフによるパブリックアート普及の重要性を追求
- ②パブリックアートを通じて芸術に慣れ親しむことによって、社会モラルが高まる環境の創出
- ③新潟県、佐渡市の観光資源開発と地域活性化への貢献

○設置場所

佐渡汽船新潟港万代島ターミナル3階待合室

○規模

縦4m、横7m（そのうち穴部分縦1.3m、横2m）

○原画・監修、金属レリーフ制作

東京藝術大学名誉教授・金工作家 宮田亮平氏

○題名

佐渡彩景

○陶板レリーフ製作

クレーレ熱海ゆがわら工房(静岡県熱海市泉 230-1)

○作家プロフィール

宮田亮平(みやた・りょうへい) 東京藝術大学名誉教授・金工作家 1945年生まれ。佐渡市出身。イルカをモチーフにした「シュプリングン」シリーズなどの作品を手がけ、「日本現代工芸美術展」大賞、内閣総理大臣賞や2012年日本藝術院賞をはじめ数多くの賞を受賞。2019年10月には、天皇陛下の御即位を祝う内閣一同からの献上品として、平和や希望の願いが込められた「シュプリングン」を制作し話題を呼ぶ。第9代東京藝術大学学長。文部科学省文化審議会会長、NHK経営委員、日展理事、横綱審議委員会委員などを歴任。2016年から文化庁長官として日本の文化行政の舵取りを担う。



宮田 亮平氏



新津駅「花の道 夢の道」
制作（2003年）



北千住駅西口駅前広場中央「乾杯」
制作（2004年）



新潟空港「佐渡ものがたり」
原画・監修（2012年）



東京メトロ 豊洲駅「豊洲今昔物語」
原画・監修（2013年）



東京メトロ 上野駅「上野今昔物語」
原画・監修（2017年）

<参考資料>

クレーレ熱海ゆがわら工房（静岡県熱海市泉 230-1）

当協会は、芸術文化の振興および環境芸術推進活動の一環として、熱海と信楽においてステンドグラス、陶板レリーフ、彫刻、モニュメントなど、パブリックアートの研究や制作支援を行っています。建築家・隈研吾氏的设计によるクレーレ熱海ゆがわら工房は、釉薬研究施設、焼成サンプル室、ステンドグラススタジオ、ショールームなども完備され、数多くのアーティストとのコラボレーションが展開される第一級のパブリックアートの創造拠点です。



矢口高雄氏（向かって右）



大友克洋氏



日比野克彦氏



平松礼二氏



東京臨海高速鉄道 りんかい線 国際展示場駅
「Osamu Tezuka, Characters on Parade～手塚治虫キャラクターズ大行進」(2016)
原画 手塚治虫 監修 株式会社手塚プロダクション



小田急線 下北沢駅(東京)
「会いそして旅立ち」(2019年)
原画 宮永岳彦 監修 宮永辰夫、小林敬生、日高康志